

ワンランク上の夏野菜栽培マニュアル（ウリ科編）

～スイカ、メロン、カボチャ～



●基本の土づくり（土壌改良：腐植の豊富な団粒化した土づくり）

1. 微生物のエサとなる有機物を圃場に散布します。
 - ・60℃程度で発酵した中熟～完熟堆肥、または腐葉土、ワラ、もみがらな植物繊維の豊富なものを1～2トン/10a散布します。
 - ・五穀堆肥を使用する場合は、30袋/10a以上です。
2. 土壌分析の結果（または経験上）、必要とするミネラルや土壌改良資材を散布します。
 - ・ウリ科作物の場合、石灰、苦土、ケイ酸、鉄は特に重要です。
 - ・苦土入りカキ殻石灰、転炉スラグ（ケイカル、ミネカル、ケイ酸鉄）などがお勧めです。
3. 菌力アップ5L/10aを50～100倍希釈して全面散布後、トラクタで混和し浅くすき込みます。

【重要】

すき込み後、菌力アップの微生物が定着し、有機物分解とともに有用物質（腐植など）の生産と土壌団粒化を促進します。そのため、**約1カ月間の養生期間**を設けることをお勧めします。

●育苗（徒長を抑え、着果性の良い強い苗づくり）

1. 自家苗の場合は、育苗培土に鈴成を5%混和します。
2. 菌力アップ200倍、コーソゴールド500倍を、週に1～2回灌水します。



「菌力アップ」
根の働きを高めます

●植付け準備、定植

1. 元肥として下記施用量を標準として施用し、混和、畝立て、マルチ張りを行います。
有機百倍 80～150kg/10a（チツソ成分換算で増減する。）
鈴成 200kg/10a
※肥沃度の高い圃場では有機百倍を減らします。リン酸過剰の圃場では、鈴成を半分にします。
※堆肥不使用の圃場では、硫酸カリまたは塩化カリ20kg程度を施用します。
2. 定植直後から活着まで、菌力アップ100倍希釈液を根もとに数回灌水し、活着促進します。
その後、灌水が可能な作物では、1週間おきに菌力アップを計4回灌水します。

●着果後の管理

1. 肥大促進と食味（糖度）向上を図ります。
（追肥）有機百倍 20～40kg/10a または、
糖力アップ 5kg/10a（200倍希釈）を2～3回灌水
コーソゴールド 500倍希釈を1週間おきに葉面散布（収穫前までOK）
（純正木酢液1000倍、本格にがり1000倍を混用するとさらに良い。）
2. 収穫後、2番果を獲る場合
糖力アップ 10kg/10a
コーソゴールド 3kg/10a を混合希釈して、2～3回灌水する。



「コーソゴールド」
肥大と食味を
引き上げます

※上記の方法は、他の野菜作でも同様に参考にになります。人参など根菜類や葉もの野菜などでもお試しください。